

<特集補遺「他動性」>

言語データ「他動性」  
—クメール語—

**Data, Special Issue : “Transitivity”  
-Khmer-**

上田 広美  
**Hiromi Ueda**

東京外国語大学大学院総合国際学研究院  
Tokyo University of Foreign Studies

**要旨** : 本稿は、特集「他動性」の調査票に基づきクメール語の資料を収集したものである。

**Abstract**: This article provides Khmer data collected by using the questionnaire prepared for the special issue “Transitivity”.

**キーワード** : クメール語, カンボジア語, 他動性, 結果動詞

**Keywords**: Khmer, Cambodian, transitivity, result verb

## 1. はじめに

クメール語の動詞句の他動性について、以下、アンケートに従って言語データを示す。発話の状況によってさまざまな表現があり得るが、代表的な表現のみを挙げた。例文とそれに関する判断は、パン・ソバナナ氏<sup>1</sup>にご教示いただいた。以下、本稿の表記は音韻表記で、坂本(1988)に従う。

## 2. データ

### 1.

1-1 彼はそのハエを殺した。

kəət	səmlap	ròj	nuh
3SG	kill	flies	that

1-2 彼はその箱を壊した。

kəət	vəəj	bəmbəək	prəəʔəp	nuh
3SG	hit	break	box	that

1-3 彼はそのスープを温めた。

kəət	kəmdav	səmləə	nuh
3SG	warm	soup	that



本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。  
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

<sup>1</sup> カンボジア王立プノンペン大学社会人文学部国文学科教員。本稿へのご協力に深く感謝する。

1-4 彼はそのハエを殺したが、死ななかつた。

kɔət	səmlap	ròj	nuh	tae	vəə	mun	slap	tèe
3SG	kill	flies	that	but	it	NEG	die	PTCL

直接影響し変化を及ぼす意味をもつ動詞であっても、クメール語では、「殺したが死ななかつた.」、「壊したが壊れなかつた.」、「温めたが温まらなかつた.」のような表現が可能である<sup>2</sup>。

2.

2-1 彼はそのボールを蹴った。

kɔət	tɔət	bal	nuh
3SG	kick	ball	that

2-2 彼女は彼の足を蹴った。

kɔət	thèək	càəŋ	kɔət
3SG	kick	foot	3SG

2-3 彼はその人にぶつかった (故意に)。

kɔət	tàv	bok	kèe
3SG	go	bump	3PL

2-4 彼はその人とぶつかった (うっかり)。

kɔət	bok	kèe
3SG	bump	3PL

対象物への影響の有無によって、前置詞句を用いるなどといった構文の違いは見られない。(1)と同じ構文をとる。

3.

3-1 あそこに人が数人見える。

khəəŋ	mèən	mòənuh	klah	nəv	khaəŋ	nuh
see	have	person	some	in	side	that

3-2 私はその家を見た。

kɾom	khəəŋ	ptèəh	nuh
1SG	see	house	that

3-3 誰かが叫んだのが聞こえた。

kɾom	luuu	soo	kèe	sraek
1SG	hear	sound	3PL	shout

3-4 彼はその音を聞いた。

kɔət	luuu	soo	nuh
3SG	hear	sound	that

知覚を表す動詞について、既に映像や音を捕えているか否かという他動性の違いによって前置詞が現れることはない。英語の *see/look at*, *hear/listen to*, 日本語の「見える／見る, 聞こえる／聞く」に近い意味範囲の動詞の使い分けとして、*/khəəŋ/məəl/*, */luuu/sdap/* があるが、動詞の直後に補語を置くという枠組みは同じである。(3-1) は、どのような「人」であるのか限定されている文であれば、存在を

<sup>2</sup> この点については、本アンケートの調査とは別に調査をしているが、現時点では、「投げる」「買う」という動詞は結果を含意し、結果を否定できないという結果が出ている。

表す動詞 /mèən/ を用いなくても、「人」という補語を述語の直後に置くことができる。

4.

4-1 彼は（なくした）カギを見つけた。

kɔət	ròk	khəəŋ	sao
3SG	look for	see	key

4-2 彼は椅子を作った。

kɔət	tvəə	kavʔəj
3SG	make	chair

発見・獲得・生産などの意味をもつ動詞の目的語（その行為を行う際には存在せず、行為の結果として生ずるもの）も、異なった構文を用いることはない。

5.

5-1 彼はバスを待っている。

kɔət	cam	laan kroŋ
3SG	wait	bus

5-2 私は彼が来るのを待っていた。

kɲom	cam	kɔət	mòk
1SG	wait	3SG	come

5-3 彼は財布を探している。

kɔət	ròk	kaaboop lòj
3SG	search	wallet

追及の意味をもつ動詞の目的語も同じ構文をとる。

6.

6-1 彼はいろんなことをよく知っている。

kɔət	cəh	craən
3SG	know	lot

6-2 私はあの人を知っている。

kɲom	skəəl	kɔət
1SG	know	3SG

6-3 彼はロシア語ができる。

kɔət	cəh	phèəsaa	roosii
3SG	know	language	Russia

「知る」「わかる」「(人を見識っている)」の意味では、複数の動詞を用いるが、いずれも構文は同じである。

7.

7-1 あなたはきのう私が言ったことを覚えていますか？

nèək	cam	ʔəvəj	dael	kɲom	prap	pii msəlməŋ	tèe
2SG	remember	what	REL	1SG	tell	yesterday	Q

7-2 私は彼の電話番号を忘れてしまった。

kɲom	plɛc	lɛek	tuurɛ̀əsap	kɔət	haəj
1SG	forget	number	telephone	3SG	PRF

記憶にかかわる動詞も、構文は同じである。

8.

8-1 母は子供たちを深く愛していた。

mdaaj	kɲom	srɔ̀ɔləj	koon	kɔət	klaj	nah
mother	1SG	love	child	3SG	strong	very

8-2 私はバナナが好きだ。

kɲom	cool cət	ɲam	ceek
1SG	like	eat	banana

8-3 私はあの人が嫌いだ。

kɲom	ʔət	cool cət	kɔət
1SG	NEG	like	3SG

感情を表す動詞も「～を好む」という表現を用いる。また、「バナナが好きだ」は、「バナナを食べるのが好きだ」として、動詞「食べる」を入れる方が一般的である。

9.

9-1 私は靴が欲しい。

kɲom	cəj	baan	sbaek cə̀əj
1SG	want	get	shoes

9-2 今、彼にはお金が要る。

kɔət	trəv kaa	lɔj
3SG	need	money

「～を欲しがっている」、「～を必要としている」という表現を用いる。

10.

10-1 (私の)母は(私の)弟がうそをついたのに怒っている。

mdaaj	kɲom	khəj	daoj	pʔoon	proh	kɲom	koʔhɔək	kɔət
mother	1SG	angry	with	younger sibling	male	1SG	lie	3SG

10-2 彼は犬が怖い。

kɔət	klaac	ckae
3SG	afraid	dog

感情主体がもっとも積極的に関与する感情（「怒る」）と、消極的に関与する感情（「恐い」）の例文でも、「～を怒る／～を恐れている」という表現を用いる。（10-1）は「うそをついたので」という理由の表現になっているが、理由に言及する必要がなく単に「弟に対して怒っている」という文であれば、「怒る」という述語の直後に「弟」という補語を置く。

11.

11-1 彼は父親に似ている。

kɔət	srɔədiəŋ	ʔəvpòk	kɔət
3SG	look like	father	3SG

11-2 海水は塩分を含んでいる。

tuk	saʔmot	mèən	cèət	ʔəmbəl
water	sea	have	ingredient	salt

関係を表す状態性の述語も他動詞と同じ構文をとる。(11-2) は所有・存在を表す動詞 /mèən/ を用いる。

12.

12-1 私の弟は医者だ。

pʔoon	proh	kɲom	(cèə)	kruu	pèet
younger sibling	male	1SG	COP	teacher	medicine

12-2 私の弟は医者になった。

pʔoon	proh	kɲom	klaaj	təv	cèə	kruu	pèet
younger sibling	male	1SG	become	go	COP	teacher	medicine

(12-1) は口語ではコピュラ /cèə/ が現れないこともある。(12-2) では, /klaaj təv/ 「～になる」の後にコピュラ /cèə/ を用いる。

13.

13-1 彼は車の運転ができる。

kɔət	ceh	baək	laan
3SG	know	drive	car

13-2 彼は泳げる。

kɔət	ceh	hael	tuk
3SG	know	swim	water

能力を表す表現は, 動作性名詞は用いず, 「(学習や訓練の結果, ～する方法を) 知っている」という意味の動詞 /ceh/ を用いて, 動詞を連続させる。

14.

14-1 彼は話をするのが上手だ。

kɔət	puukae	nijjèəj
3SG	capable	talk

14-2 彼は走るのが苦手だ。

kɔət	mun	puukae	rət
3SG	NEG	capable	run

「上手だ」は形容詞 /puukae/ の補語として動詞の定形を用いる。

15.

15-1 彼は学校に着いた.

kɔət	mòək	dəl	saalaa	riən	haəj
3SG	come	arrive	school	study	PRF

15-2 彼は道を渡った／横切った.

kɔət	cləŋ	pləv
3SG	cross	road

15-3 彼はこの道を通った.

kɔət	daə	pləv	nih
3SG	walk	road	this

移動を表す表現も、他動詞と同じ構文をとる.

16.

16-1 彼はお腹を空かしている.

kɔət	klèən	baaj
3SG	hungry	meal

16-2 彼は喉が渇いている.

kɔət	sreek	tuuk
3SG	thirsty	water

「空腹だ」「喉が渇いた」という感覚を表す表現は、「食事」「水」をそれぞれ補語とする.

17.

17-1 私は寒い.

kɲom	ròŋhèə
1SG	cold

17-2 今日は寒い.

tɲaj	nih	ròŋhèə
day	this	cold

「寒い」という感覚を表す表現は形容詞 /ròŋhèə/ を述語とする.

18.

18-1 私は彼を手伝った／助けた.

kɲom	cuoj	kɔət
1SG	help	3SG

18-2 私は彼がそれを運ぶのを手伝った.

kɲom	cuoj	kɔət	cəŋcuun	ròbɔh	nuh
1SG	help	3SG	carry	thing	that

社会的相互行為を表す動詞「助ける」も補語を後置する同じ枠組みを用いる.

19.

19-1 私はその理由を彼に聞いた.

kɲom	suo	kəət	pii	muulhaet	nuh
1SG	ask	3SG	about	reason	that

19-2 私はそのことを彼に話した.

kɲom	prap	kəət	pii	ruəŋ	nuh
1SG	tell	3SG	about	story	that

社会的相互行為のうち言語行動に関する動詞は、補語として相互行為の相手を表す名詞を用いる。何に関する話であるかという言語行動の内容は、前置詞句として補語に後置する。前置詞は /pii/ を用いる。

20.

20 私は彼と会った.

kɲom	cuop	kəət
1SG	meet	3SG

再帰・相互を表す動詞も補語を後置する同じ枠組みを用いる。

### 3. おわりに

以上、クメール語の動詞の構文についてデータを挙げた。他動詞、自動詞の区別にかかわらず、動詞句は同じ構文をとる。(1)の例文の注で述べた、どのような動詞が結果を含意し、どのような動詞が含意しないのか、という範囲については、あらためて考察したい。

略語は以下の通り。コピュラ COP, 1 人称 1, 否定 NEG, 文末詞 PTCL, 完了 PRF, 人名 PSN, 複数 PL, 前置詞 PREP, 疑問マーカー Q, 関係詞 REL, 2 人称 2, 単数 SG, 3 人称 3, 自由交替 /

### 参考文献

和文

坂本恭章.1988.「クメール語」,『言語学大辞典第1巻世界言語編(上)』, pp.1479-1505, 亀井孝, 河野六郎, 千野栄一編, 三省堂.

執筆者連絡先 : uedahiro@tufs.ac.jp

原稿受理 : 2019年12月3日